

科目名			担当者	
総合学習			阿部 秀樹 原田 光子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次・通年	実習・演習	60 時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	・介護福祉士国家試験合格を目指し、そのためには何が必要か、どのような学習が効果的かを自身で考え学習できる。 ・自己学習を徹底し、継続して学び続けることで自身の弱点を見つけ、それを克服しようとひたむきに取り組むことができる。 ※介護福祉士として対人援助の経験を持つ教員が、介護過程の授業を指導する。 ※大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。
授業の概要 達成 課題	・介護福祉士国家試験合格水準に到達できるようにする。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

《テーマ／課題／宿題等を箇条書きで記載》

第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	国家試験過去問題
第 2 週	国家試験過去問題	第 17 週	国家試験過去問題
第 3 週	国家試験過去問題	第 18 週	国家試験過去問題 解説
第 4 週	国家試験過去問題 解説	第 19 週	模擬試験過去問題
第 5 週	模擬試験過去問題	第 20 週	模擬試験過去問題
第 6 週	模擬試験過去問題	第 21 週	模擬試験過去問題 解説
第 7 週	模擬試験過去問題 解説	第 22 週	国家試験過去問題
第 8 週	国家試験過去問題	第 23 週	国家試験試験問題
第 9 週	国家試験過去問題	第 24 週	国家試験過去問題 解説
第 10 週	国家試験過去問題 解説	第 25 週	模擬試験
第 11 週	模擬試験過去問題	第 26 週	模擬試験
第 12 週	模擬試験過去問題	第 27 週	模擬試験
第 13 週	模擬試験過去問題 解説	第 28 週	模擬試験
第 14 週	模擬試験	第 29 週	国家試験過去問題
第 15 週	模擬試験	第 30 週	国家試験過去問題

成績評価方法	課題提出物 30%、模擬試験 70%
教科書	
参考書	介護福祉士国家試験過去問題解説集 中央法規
備考	自分に合った勉強方法を確認し、自宅での学習を充実させていきましょう。

科目名			担当者	
人間の理解（介護実践におけるチームマネジメント）			高橋 彰彦	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	講 義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	・ 介護実践におけるチームマネジメントの意義について理解する ・ ケアを展開するためのチームマネジメントについて理解する ・ 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメントについて理解する ・ 組織の目標達成のためのチームマネジメントについて理解する ※社会福祉士として高齢者福祉施設において相談援助業務経験（生活相談員）があり、かつ、法令で定められている介護教員講習会修了者がこの科目を指導する。
授業の概要 達成 課題	現在、介護実践において、介護サービスがヒューマンサービスであるがゆえに、介護福祉士にチームマネジメントの能力が求められている。そのため、(1) 介護の質を高めるための必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、(2) チームで働くために必要な能力を養う介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、(3) それらを遂行するに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解できるようにする。以上 (1) ～ (3) がこの授業の概要となる。 ※社会福祉士として相談援助業務経験に関わった教員が指導する。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第 1 週 オリエンテーション～ヒューマンサービスとしての介護サービス～
 第 2 週 介護福祉サービスの特性と求められるマネジメントの理解①チームマネジメントとは
 第 3 週 介護福祉サービスの特性と求められるマネジメントの理解②チームマネジメントの取り組みについて
 第 4 週 介護福祉サービスの特性と求められるマネジメントの理解③同職種、多職種チームについて考える
 第 5 週 組織と運営管理①福祉サービスの組織の機能について
 第 6 週 組織と運営管理②法人理念と経営理念とは
 第 7 週 組織と運営管理③組織の成り立ちと構造について
 第 8 週 組織と運営管理④コンプライアンスについて
 第 9 週 チーム運営の基本①チームの機能と構成について
 第 10 週 チーム運営の基本②リーダーシップとフォロワーシップについて
 第 11 週 チーム運営の基本③PDCA サイクルについて
 第 12 週 人材の育成と管理①OJT, OFF-JT について
 第 13 週 人材の育成と管理②ティーチング、コーチングについて
 第 14 週 人材の育成と管理③スーパービジョン、コンサルテーションについて
 第 15 週 まとめ～モチベーションマネジメント～

成績評価方法	《評価方法（各回の小テスト、中間テスト、レポート、期末試験、出席率等）、その配分、評価基準を記載》 試験（50％） 受講姿勢・積極性（20％） 板書事項をノートに取る（10％） 講師の質問に対する回答内容の適切性・方法（10％） 居眠りの有無（10％）
教科書	・ 人間の理解 中央法規出版 2022 年発行 ・ 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房出版 2022 年発行 ・ 六訂 社会福祉用語辞典 中央法規出版
参考書	
備考	

科目名			担当者	
生活アクティビティ			加藤 昭仁	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	レクリエーションの認識が高まり、一般化してきている現代において、レクリエーション支援者としてどのような役割が求められているかを学ぶ。 また、様々なレクリエーション活動を経験し、その支援の方法や行事の企画運営などについて学習する。		
授業の基礎編 達成課題	様々なレクリエーション財に触れ、説明ができるようになるとともに、支援方法の幅広さや、対象者の主体性を尊重した姿勢等の、レクリエーション支援の概要について理解していく。さらに、様々な人との関わりの中でコミュニケーションスキルを高める。		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第 1 週	ガイダンス	第 16 週	コミュニケーションワーク①（ホスピタリティ）
第 2 週	レクリエーションの意義	第 17 週	コミュニケーションワーク②（ホスピタリティ）
第 3 週	レクリエーション運動の歴史	第 18 週	コミュニケーションワーク③（アイスブレイキング）
第 4 週	レクリエーション・インストラクターの役割と期待	第 19 週	コミュニケーションワーク④（アイスブレイキング）
第 5 週	高齢社会の課題とレクリエーション	第 20 週	アイスブレイキングのプログラム①ゲーム
第 6 週	少子化の課題とレクリエーション	第 21 週	アイスブレイキングのプログラム②ソング
第 7 週	地域とレクリエーション	第 22 週	アイスブレイキングのプログラム③ダンス
第 8 週	レクリエーション支援の構造と理解	第 23 週	レクリエーション活動の実際①ニュースポーツ
第 9 週	レクリエーション支援の展開と方法	第 24 週	レクリエーション活動の実際②ニュースポーツ
第 10 週	レクリエーション事業とは	第 25 週	レクリエーション活動の実際③ニュースポーツ
第 11 週	支援実習に合わせた活動計画案の作成	第 26 週	レクリエーション活動の実際④クラフト
第 12 週	場面に応じた事業の企画運営	第 27 週	対象者に合わせたアレンジ方法
第 13 週	事業の評価	第 28 週	対象者に合わせた支援実習
第 14 週	事業運営における安全管理	第 29 週	レクリエーション行事の実際「集い」
第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ
成績評価方法	試験 50%、作品 25%、演習課題 25%による評価		
教科書	楽しさをおとした心の元気づくり 日本レクリエーション協会 2017		
参考書	授業内でプリントを配布することもある。		
備考			

科目名			担当者	
手話演習Ⅱ			奥田育代	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次 ・ 通年	演習	60 時間	2 単位	有 ※

授業の目的 と 到達目標	目 的：耳の聞こえない方々とのコミュニケーション手段の獲得 達成目標：・ 日常会話に必要な手話表現ができる ・ 聴覚障害者および手話への理解を深めることができる ・ 施設内および在宅サービス等で手話で対応することができる ※平成 29 年度富谷市手話入門講座講師、平成 30 年度はじめての日本手話入門講座講師、 令和 2 年度より宮城県手話通訳者養成講座にて手話指導中		
授業の概要 達成 課題	・ 日常会話に必要な手話単語の導入、自然な順序で習得する ・ 手話の読み取り力や表現力を身につけてコミュニケーション力を高める ・ 指文字の習得 ・ 聴覚障害やろう文化を理解する ・ 福祉の現場など手話での対応ができる		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第 1 週	復習「挨拶、名前、家族、数字、指文字」	第 16 週	手話ソング①検定対策①
第 2 週	復習「地名、カレンダー、タイムテーブル」	第 17 週	手話ソング②検定対策②
第 3 週	復習「交通、嗜好品、食物」	第 18 週	手話ソングステージに向けて③
第 4 週	復習「家、自然、建物、感情、趣味」	第 19 週	聴覚障害者疑似体験
第 5 週	「反対語、CL」	第 20 週	「聴覚障害者福祉施設について」
第 6 週	「句や文をつなぐ言葉、文末の言葉」	第 21 週	「聴覚障害・盲ろうの基礎」
第 7 週	「年中行事」	第 22 週	「ろう者の歴史と文化」
第 8 週	「自動車」	第 23 週	「仕事」
第 9 週	「大会、試合」	第 24 週	「家電・インターネット」
第 10 週	「買い物・食材・金銭」	第 25 週	「介護の現場でよく使う言葉①」
第 11 週	「病状・健康管理」	第 26 週	「介護の現場でよく使う言葉②」
第 12 週	「手話検定 3 級までの基本単語」	第 27 週	「レクリエーション」
第 13 週	会話をしてみよう	第 28 週	総まとめ①
第 14 週	手話ソング導入、実技テストに向けて	第 29 週	実技テスト
第 15 週	実技テスト	第 30 週	総まとめ②
成績評価方法	積極的な演習参加、授業態度、手話によるコミュニケーション能力（以下の点）などにより 総合的に評価する。 ・ 日常生活に必要な手話単語、会話内容が理解できるかどうか ・ 相手の言いたいことを理解し、意図的にコミュニケーションがとれているか 指文字小テスト（20%） 手話単語読み取りテスト（20%） 実技テスト（60%）		
教 科 書	なし		
参 考 書	必要に応じて資料を配布します。		
備 考	令和 3 年 4 月より宮城県にて「障害を理由とする差別を解消し障害のある人もない人も共生する社会 づくり条例」及び「手話言語条例」が施行されました。今後手話のできる職員の需要が高まると 予想されます。耳の聞こえない方々とのコミュニケーションを円滑に進めるための手立てを身につ けて、社会性も高めていただけると嬉しいです。		

科目名			担当者	
コンピューター演習			宇川 雅晴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・通年	演習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	マイクロソフト社のアプリケーションソフト Word®、Excel®、PowerPoint®を用い、介護実務に必要な記録文書の作成、会計等事務作業、発表資料作成等のビジネススキルを習得する。 - 基本的なビジネス文書を作成することができる - 基本的な表計算処理の技能を習得する - ビジネスシーンを想定した標準的なプレゼンテーションを作成することができる - 全経文書処理能力検定試験の合格を目標とする。 - サーティファイ PowerPoint®プレゼンテーション技能認定試験の合格を目標とする。 ※情報機器メーカーの設計技術部門で勤務経験のある教員が、アプリケーションソフトウェアの演習授業を指導する。		
授業の概要 達成 課題	- Microsoft Word®の基本操作 - Microsoft Excel®の基本操作 - Microsoft PowerPoint®の基本操作 - 文書処理能力検定試験の対策を行い、合格を目指す。 - PowerPoint®プレゼンテーション技能認定試験の対策を行い、合格を目指す。		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第 1 週	Word の基本的操作	第 16 週	セルの参照と順位付け
第 2 週	文字入力練習	第 17 週	PowerPoint の基本知識
第 3 週	文書作成の基礎知識	第 18 週	プレゼンテーションの作成
第 4 週	各種文書作成	第 19 週	プレゼンテーションの構成とデザイン
第 5 週	各種文書作成	第 20 週	文字の編集・オブジェクトの作成
第 6 週	文書作成演習	第 21 週	クリップアート・グラフ等の挿入
第 7 週	文書作成演習	第 22 週	表示効果とハイパーリンク
第 8 週	文書作成演習	第 23 週	スライドショーの実行
第 9 週	文書処理能力検定試験対策	第 24 週	検定試験対策（練習問題 1）
第 10 週	文書処理能力検定試験対策	第 25 週	検定試験対策（練習問題 2）
第 11 週	文書処理能力検定試験対策	第 26 週	検定試験対策（練習問題 3）
第 12 週	Excel の基本的操作	第 27 週	検定試験対策（練習問題 4）
第 13 週	ワークシート編集	第 28 週	模擬問題 1
第 14 週	関数の利用	第 29 週	模擬問題 2
第 15 週	グラフ	第 30 週	模擬問題 3
成績評価方法	提出物		
教科書	「30 時間でマスターWord&Excel2019」実教出版 「Microsoft PowerPoint2019 クイックマスター」ウイネット 「PowerPoint®プレゼンテーション技能認定試験問題集」サーティファイ		
参考書			
備考			

科目名			担当者	
介護福祉各論Ⅱ			加 賀 由 高	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次前期	講義	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	① 介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解する。 ② 介護福祉士に必要な感染に関する知識を得、対策について理解する。 ③ 介護の現場で協働する多職種の機能と役割を知り、連携と協働について理解する。 ④ 介護従事者の健康管理、労働環境の整備等から介護従事者の安全について理解する。
授業の概要 達成課題	介護における安全とリスクマネジメントについて理解し、連携協働の中で対策を実行することができる。 介護従事者の健康と安全について理解し、自分自身の健康管理を行うことができる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第 1 週 介護における安全の確保 第 2 週 リスクマネジメントとは 第 3 週 感染症対策 第 4 週 多職種連携・協働の必要性 第 5 週 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 第 6 週 多職種連携・協働に求められる基本的な能力 第 7 週 保健・医療・福祉職の役割と機能 第 8 週 保健・医療・福祉職の役割と機能 第 9 週 多職種連携・協働の実際 第 10 週 多職種連携・協働の実際 第 11 週 健康管理の意義と目的 第 12 週 こころの健康管理 第 13 週 身体の健康管理 第 14 週 労働環境の整備 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	定期試験で評価する。
教科書	最新介護福祉士養成講座 4 『介護の基本Ⅱ』第 2 版 中央法規出版
参考書	最新介護福祉全書 3 介護の基本 メヂカルフレンド社
備考	「多職種連携」については、他の科目でも学ぶ重要ポイントです。理解を深めましょう。

科目名			担当者	
介護福祉各論Ⅲ			加 賀 由 高	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次 ・ 通年	演 習	60 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	・介護福祉士の基本となる理念のもとに、地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解し、介護福祉士の専門職としての能力と態度を養うための学習とする。 ・介護福祉士に求められる役割と機能を理解する ①介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要な介護の基礎的な知識・技術を習得する。 ②利用者・家族との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 ③対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための支援を理解する。 ④介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 ⑤介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。 ＊介護福祉士として福祉施設業務の経験を持つ教員が、介護過程の演習授業を指導する。		
授業の概要 達成 課題	・介護福祉を必要とする人の理解を深め、介護実践に必要とする知識と技術を習得する。 ・生活を支えるしくみを理解し、介護実践に必要とする知識と技術を習得する。		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第1週	(振り返り) 生活とは何か	第16週	生活を支えるフォーマルサービス (社会的サービス) とは
第2週	生活にとって大切な要素	第17週	高齢者のためのフォーマルサービスの概要①
第3週	生活の特性	第18週	高齢者のためのフォーマルサービスの概要②
第4週	介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解すること	第19週	障害者のためのフォーマルサービスの概要①
第5週	介護福祉を必要とする高齢者の暮らし	第20週	障害者のためのフォーマルサービスの概要②
第6週	介護福祉を必要とする障害者の暮らし	第21週	生活を支えるインフォーマルサービス (私的サービス) とは
第7週	個人の暮らしや歴史を聴く場合の注意点		費用負担による区分
第8週	「その人らしさ」とは何か その背景	第22週	フォーマルサービスと インフォーマルサービスの関係
第9週	「その人らしさ」の介護福祉における活用	第23週	インフォーマルサービスの種類
第10週	「生活ニーズ」の理解	第24週	インフォーマルサービスの提供者
第11週	個々の生活ニーズにどこまでこたえるか	第25週	介護福祉士に求められる支援の視点
第12週	生活のしづらさについて考える	第26週	地域連携の意義と目的①
第13週	日常生活から考える「生活のしづらさ」	第27週	地域連携の意義と目的②
第14週	「生活のしづらさ」に対する支援	第28週	地域連携にかかわる機関の理解
第15週	家族介護者への支援 、 まとめ	第29週	利用者を取り巻く地域連携の実際
		第30週	まとめ
成績評価方法	定期試験 (80%)、小テスト・課題・レポート (20%)		
教科書	最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」第2版 中央法規出版		
参考書	適宜、資料などを配布する		
備考			

科目名			担当者	
コミュニケーション方法論Ⅱ			高橋彰彦	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次・前期	演習	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	介護現場において、なぜコミュニケーション技術が重要なのか理解すると共に、コミュニケーションの基本技術と障害別の技術、チームとのコミュニケーション技術が理解・実践できるようになる。 ※介護福祉士・社会福祉士として現場でコミュニケーションをとってきた者が担当する
授業の概要 達成課題	講義に加え演習を効果的に行うことで、現場で実践できる技術を身に着けるようにしていく 予習・復習を促し、またプライベートでのコミュニケーション場面においても、授業内容を実践し、効果を実感できるようにしていく また、コミュニケーションを怖がらず、積極的にとれるようになることを目指す
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 コミュニケーション障害への対応①(視覚障害) 第 2 週 コミュニケーション障害への対応②(聴覚障害) 第 3 週 コミュニケーション障害への対応③(言語障害) 第 4 週 コミュニケーション障害への対応④(認知症) 第 5 週 コミュニケーション障害への対応⑤(精神・発達障害) 第 6 週 家族とのコミュニケーション① 第 7 週 家族とのコミュニケーション② 第 8 週 チームとしてのコミュニケーション 第 9 週 報告・連絡・相談① 第 10 週 報告・連絡・相談② 第 11 週 記録① 第 12 週 記録② 第 13 週 記録③ 第 14 週 記録④ 第 15 週 会議・議事進行・事例検討	
成績評価方法	試験 (70%) 受講態度 (10%) 取り組み方 (20%)
教科書	コミュニケーション技術 中央法規 2019 年発行
参考書	自作教材プリント使用
備考	・演習を多く入れますが、ふざけたり、照れすぎたり、消極的にならないように積極的に取り組んで下さい ・実践的な内容ですので、実践や実習に活かせるように実行・行動して下さい

科目名			担当者	
生活支援技術Ⅱ			阿部 秀樹 黒沢 麻美	常勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	利用者ひとりひとりが、その人らしい生活を継続するために必要な生活支援の方法を理解し実践できる。また、それぞれの障害に応じた生活支援の方法を学び、利用者の障害・能力に合わせ、自立を尊重した生活支援技術の取得を目指す。 介護を行うに当たり、他職種の役割と協働・連携について理解し、チームケアの重要性を知る。 ＊介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、生活支援技術の演習授業を指導する。
授業の概要 達成課題	・利用者の障害・能力に合わせた自立を尊重した生活支援技術を習得し、その生活を連続的にとらえることができるよう、講義・演習を実施する。 ・こころとからだのしくみ・障害の理解等の科目と重ね、アセスメントの視点や支援方法の根拠を理解する。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週	オリエンテーション、生活支援技術Ⅰ振り返り	16. 食事の介護
第2週	移動・移乗の介護	17. 食事介助の実際（片麻痺、視覚障害）
第3週	体位変換の介助	18. 特別講話：口腔ケアの意義と目的
第4週	自立に向けた移動の介護 （安全で的確な移動介助の方法）	19. 特別講話：福祉用具を活用する意義
第5週	自立に向けた移動の介護 （車椅子からベッドへの移乗）	20. 自立に向けた着脱の介護（片麻痺、四肢麻痺）
第6週	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 （爽快感・安楽を支える介護）	21. 実習Ⅳ振り返り①
第7週	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 （入浴・清潔保持の介護の実際）（5/20）	22. 実習Ⅳ振り返り②
第8週	排泄の介護	23. 右半身まひのある方に対しての起き上がり・歩行の介護
第9週	自立に向けた排泄の介護（PWC、尿器・差込便器）	24. 右上下肢麻痺のある方に対しての着脱・移動の介護
第10週	自立に向けた排泄の介護（オムツ交換）	25. 左上下肢麻痺のある方に対しての仰臥位～PWCへの移乗の介護
第11週	総振り返り	26. 右上下肢麻痺のある方に対しての杖歩行の介護
第12週	実習Ⅱ振り返り（移動）	27. 右上下肢麻痺のある方に対しての床上排泄の介護
第13週	実習Ⅱ振り返り（食事）	28. 左片麻痺のある方に対しての床上着脱の介護
第14週	実習Ⅱ振り返り（排泄）	29. 下肢筋力の低下のみられる方に対しての床からの立ち上がりの介護
第15週	実習Ⅱ振り返り（入浴・更衣）	30. 総振り返り

成績評価方法	・小テスト（20%）、定期試験（80%）
教科書	最新介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」中央法規出版 最新介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版
参考書	自作教材プリント 使用
備考	・実習室の使用に際し、各自環境整備や衛生管理に努め、施設実習の予行練習が出来るようにしてください。 ・上記と同様、各自自身の身支度をしっかり整え、対象者を不快にさせるような状況や行動は慎んでください。 ・授業時間内での演習、体験には限界があるため、放課後や空き時間を使ってどんどん実習室を利用し、特に復習に力を入れて取り組んでください。

科目名			担当者	
生活支援技術Ⅲ			加 賀 由 高	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次通年	講義	60 時間	必修 3 単位	有

授業の目的 と 到達目標	① 各障害について理解を深め、正確な知識を習得する。 ② それぞれの障害に応じた生活支援の方法を学び、利用者の障害・能力に合わせ、自立を尊重した生活支援技術の取得を目指す。 ③ 介護実践にあたり、他職種の役割と協働・連携について理解し、チームケアの重要性を知る。 ＊福祉施設等で介護福祉士として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。		
授業の概要 達成課題	各障害をもつ人を理解し、支援方法及び留意点を理解する。 こころとからだのしくみ・障害の理解等の科目と重ね、アセスメントの視点や支援方法の根拠を理解する。		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第 1 週	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは	第 16 週	知的障がいに応じた介護
第 2 週	肢体不自由に応じた介護①	第 17 週	精神障がいに応じた介護①
第 3 週	肢体不自由に応じた介護②	第 18 週	精神障がいに応じた介護②
第 4 週	視覚障がいに応じた介護	第 19 週	高次脳機能障がいに応じた介護
第 5 週	聴覚・言語障がいに応じた介護①	第 20 週	発達障がいに応じた介護
第 6 週	聴覚・言語障がいに応じた介護②	第 21 週	【難病】筋萎縮側索硬化症（ALS）に応じた介護
第 7 週	重複障がい(盲ろう)に応じた介護	第 22 週	【難病】パーキンソン病に応じた介護
第 8 週	【内部障がい】心臓機能障がいに応じた介護	第 23 週	【難病】悪性関節リウマチに応じた介護
第 9 週	【内部障がい】呼吸器機能障がいに応じた介護	第 24 週	【難病】筋ジストロフィーに応じた介護
第 10 週	【内部障がい】腎臓機能障がいに応じた介護	第 25 週	事例①
第 11 週	【内部障がい】膀胱直腸機能障がいに応じた介護	第 26 週	事例②
第 12 週	【内部障がい】小腸機能障がいに応じた介護	第 27 週	事例③
第 13 週	【内部障がい】H I V による 免疫機能障がいに応じた介護	第 28 週	事例④
第 14 週	【内部障がい】肝機能障がいに応じた介護	第 29 週	事例⑤
第 15 週	重症心身障がいに応じた介護	第 30 週	まとめ
※小テストを実施する。			
成績評価方法	定期試験による評価とする。		
教科書	最新介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」第 2 版 中央法規出版		
参考書	最新介護福祉全書 別冊 4 「障害別生活支援技術」メヂカルフレンド社		
備考	・プリント資料等により、補足して授業を行います。 ・利用者の、その人らしい生活を支援するため、アセスメントの視点を持ち、介護を展開できるようにしましょう。		

科目名			担当者	
生活支援技術Ⅳ			原田 光子 橋本 利子	常 勤 非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次 ・ 通年	講義・演習	90 時間	必修3 単位	有

授業の目的 と 到達目標	生活技術Ⅳは介護を必要とする利用者の QOL を高め、生きる意欲に結び付く生活援助について自ら考え、援助の視点を明確に述べる力、実践することができる力を養うことを目的とします。自立支援の観点から家事援助や家庭における介護について基礎的な知識と技術を学び、高齢者の生活に寄り添った生活支援の態度、技術を身につけることを到達目標とします。 住環境・福祉用具を介護保険も視野に理解を深め、個別性を考えた支援を行えるようにします。また、応急処置を理解し実践できるようにすること、災害時の対応について理解します。
授業の概要 達成 課題	授業は、利用者主体の生活支援ができるよう日常生活における介護の視点と基本的な知識と技術について解説します。 また、調理、裁縫、掃除などの実習を多く取り入れ基本的な生活技術について理解を深めます。授業を通してその人らしい生活を継続していくための多様な生活のあり方を柔軟に受け入れ専門職として利用者の QOL の向上に役立つ支援のあり方を考え、実践する態度を身につけます。介護過程、介護保険、障害の理解の科目と連動し、演習を交えながら理解を深めていきます。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	オリエンテーション 自立に向けた生活支援の理解	第 16 週	オリエンテーション：生活支援とは
第 2 週	生活支援と介護過程、	第 17 週	生活支援：自立した家事とは
第 3 週	生活支援とチームアプローチ	第 18 週	衣生活：被服の役割と素材の知識
第 4 週	生活空間、	第 19 週	衣生活：衣服の衛生管理（洗濯介護）
第 5 週	安全に暮らすための生活環境、他職種との連携	第 20 週	衣生活：手縫いの基礎①（縫い方の種類）
第 6 週	福祉用具の意義	第 21 週	衣生活：手縫いの基礎②（ボタン等の付け方） 衣生活：ミシン縫いの基礎
第 7 週	生活支援における福祉用具の重要性	第 22 週	住生活：住居の環境整備
第 8 週	福祉用具の種類	第 23 週	食生活：栄養学概論（栄養素の種類とその働
第 9 週	公的制度における介護福祉用具サービス 適切な福祉用具を選ぶための視点	第 24 週	き） 食生活：栄養学概論（調理法とその働き）
第 10 週	応急手当の知識と技術	第 25 週	食生活：調理実習の計画（冷蔵庫等に有るも
第 11 週	災害時における生活支援	第 26 週	の・残りものだけで何種類作れるか） 食生活：第 26 週で計画した種類の調理実習
第 12 週	授業の振り返り	第 27 週	食生活：調理実習（介護される人に合わせた
		第 28 週	調理法） 食生活：調理実習（介護予防・予防医学を考
		第 29 週	慮した食事・薬膳料理を含む） 振り返り：ワークシートを用いて衣食住を各
		第 30 週	グループで復習（グループ発表あり）
成績評価方法	【前期】授業内レポート・課題制作・提出課題・テスト（実技テスト・筆記テストなど） 【後期】①実習での毎回小テスト・筆記テスト・グループ発表（わかりやすいプレゼンテーション） ②授業内レポート・課題提出		
教科書	最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅰ・中央法規出版		
参考書	必要時資料配付します。		
備考	授業の内容により教室変更があります（使用教室は事前に連絡します）。 調理実習では、エプロン・三角巾などの準備が必要です。 介護実習室での演習は、実習着を着用してください。		

科目名			担当者	
介護過程Ⅲ			阿部 秀樹	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次 ・ 通年	演 習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	・ 介護過程の実践的展開を通し、利用者の方一人ひとりに合わせたよりよいサービスの提供とは何かを考え実践できる。 ・ 演習の中にグループワークを取り入れ、事例を通してどのように介護過程が展開されるのかを把握し、内容を深めていくことができる。 ・ ICFの視点を理解した介護過程の展開を理解できる。 ＊介護福祉士として対人援助の経験を持つ教員が、介護過程の授業を指導する。
授業の概要 達成 課題	介護過程の展開を通して、チームアプローチの重要性を理解し、チームの一員として他職種と連携を図り、よりよいサービスの提供ができるようにする。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週	実習Ⅰ（介護過程Ⅱ）振り返り①	第16週	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
第2週	実習Ⅰ（介護過程Ⅱ）振り返り②	第17週	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
第3週	「している活動」と「できる活動」	第18週	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
第4週	活動の「レポートリー」と「バラエティー」	第19週	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
第5週	アセスメントの実際と情報の解釈・統合化	第20週	実習Ⅳ振り返り
第6週	生活課題の明確化（自立・快適・安全）	第21週	記録の書き方（実習日誌）
第7週	事例を用いたアセスメント	第22週	プロセスレコードの記載について①
第8週	事例を用いたアセスメント②	第23週	プロセスレコードの記載について②
第9週	介護目標と介護計画	第24週	振り返り①（自立・快適・安全の視点別の解釈）
第10週	目標と生活課題の優先順位	第25週	振り返り②（介護目標の設定、優先順位）
第11週	具体的な支援内容・方法について	第26週	振り返り③（具体的な支援内容・支援方法）
第12週	評価の方法①	第27週	振り返り④（結果・評価）
第13週	評価の方法②	第28週	介護過程とケアマネジメントの関係性
第14週	実習Ⅱ振り返り①	第29週	ケアプランと個別援助計画の関係性
第15週	実習Ⅱ振り返り②	第30週	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
成績評価方法	定期試験（100%）		
教科書	最新介護福祉士養成講座9「介護過程」中央法規出版		
参考書	「よくする介護」を实践するためのICFの理解と活用		
備考			

科目名			担当者	
介護総合演習Ⅱ			阿部 秀樹 加賀 由高	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次 ・ 通年	演 習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的 と 到達目標	・介護実習に必要な総合的対応能力を身につけることができる。 ・要介護者の生活を介護福祉士の専門性を活かした視点でとらえることができる。 ＊介護福祉士としての対人援助の経験を持つ教員が、介護総合演習の演習授業を指導する。 ＊福祉施設等で介護福祉士として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。		
授業の概要 達成課題	専門職としての介護福祉士に求められる資質、技能、知識、自己の課題を的確に把握し、 介護実習において実践ができるようにする。 実習を振り返り、事例研究をまとめ発表することができる。		
【各回のテーマ・内容・授業方法】			
第1週	実習Ⅰの目的と介護実習で使用する書類	第16週	障がい者支援施設の理解（施設見学）①
第2週	実習先の特徴の理解（デイサービス）	第17週	障がい者支援施設の理解（施設見学）②
第3週	実習先の特徴の理解（デイサービス）	第18週	障がい者支援施設の理解（施設見学）③
第4週	実習先の特徴の理解（短期入所生活介護）	第19週	障がい者支援施設の理解（施設見学）④
第5週	実習先の特徴の理解（短期入所生活介護）	第20週	実習Ⅳの取り組みについて
第6週	実習施設の理解（施設見学）	第21週	事例研究の進め方・まとめ方
第7週	実習施設の理解（施設見学）	第22週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）①
第8週	実習施設の理解（施設見学）	第23週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）②
第9週	実習先の特徴の理解（訪問入浴介護）	第24週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）③
第10週	実習先の特徴の理解（訪問入浴介護）	第25週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）④
第11週	介護実習Ⅲ自己課題	第26週	実習Ⅳの振り返り（事例研究）⑤
第12週	介護実習Ⅲ実習日誌①	第27週	事例研究のまとめ①
第13週	介護実習Ⅲ実習日誌②	第28週	事例研究のまとめ②
第14週	実習Ⅲオリエンテーション（アヒサシクレン）	第29週	発表
第15週	実習Ⅲ振り返り	第30週	発表
成績評価方法	・小テスト（20%）、提出物（80%）		
教科書	最新介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版 中央法規出版		
参考書			
備考			

科目名			担当者	
実習 II			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	実 習	184時間	必修 6単位	有

授業の目的 と 到達目標	・学内で学んだ知識や技術を介護実習の場で活用し、個別ケアを理解した上で利用者の方、ご家族の方とのコミュニケーションの実践、状況に応じた介護技術の提供、多職種や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解できる。 ・利用者の方のニーズに応じた適切な介護を実践するために、利用者の方が抱えている課題を明確にし、自立を支援するケアに着目しながら介護計画を作成していく中で、介護過程を展開することを理解できる。 ＊介護福祉士としての実務経験のある教員が、介護実習の指導をする。
授業の概要 達成課題	・比較的コミュニケーションが図りやすい方1名を担当利用者とし、利用者の生活課題を明確に把握し、自立を支援するケアに着目しながら、アセスメント、ニーズの把握、介護計画を立案し、実習記録にまとめる。 ・個別ケアを理解した上でのコミュニケーション、生活支援技術の適正な使い方、他職種や関係機関との連携を通じた、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- ・23日間を通しての主な実習内容
 1. 実習オリエンテーション
 2. 施設の運営、多様なサービスとの連携により、サービスの提供における介護福祉専門職の職務を理解する（可能であれば変則勤務を体験する）
 3. コミュニケーションの実践を通し、利用者の方個々に合わせたコミュニケーションの方法を用いて、有効なコミュニケーションの方法と技法を理解する
 4. 利用者の方との関わりの中でその方の特性や生活リズムを理解し、ニーズに応じた適切な介護の実践を理解する
 5. 利用者の方の課題を明確にするために、情報収集の中からその理解につとめ、介護計画を作成し、介護過程を展開することを理解する
 6. 利用者の方の日常生活や状況に応じた個別的な介護技術を実践を通して学ぶ
 7. 必要な介護記録の取り方を理解する
 8. 進行度に応じたケースカンファレンスの実施、反省会の実施

(1日8時間 × 23日 = 184時間)

成績評価方法	実習評価表にもとづく総合評価
教科書	
参考書	
備考	介護実習という実践の場で、学内では学べないことを大いに、食欲に学んでください。

科目名			担当者	
実習 III			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	実 習	4 5時間	必修 1 単位	有

授業の目的 と 到達目標	・様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解できる。 ・「在宅介護」の分野の力量を十分に体得できるようにする。 ＊介護福祉士としての実務経験のある教員が、介護実習の指導をする。
授業の概要 達成 課 題	利用者の方の生活形態、家族、地域社会との関連、自立支援、保健医療との連携について、対象者を中心としてどう展開されているのか等を実践を通して学び、理解できるようにする。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

6日間を通しての主な実習内容

訪問入浴介護、通所介護、短期入所生活介護等の老人居宅支援事業などを実習施設とし、居宅サービスを中心とする、利用者の生活の場である多様な介護現場において、

- ・ 利用者の理解
- ・ 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践
- ・ 多職種協働の実践
- ・ 介護技術の確認

を行うことに重点を置き、実習を行う。

(1日8時間 × 6日 = 48時間)

成績評価方法	実習評価表にもとづく総合評価
教 科 書	
参 考 書	
備 考	介護実習という実践の場で、学内では学べないことを大いに、貪欲に学んでください。

科目名			担当者	
実習 IV			阿部 秀樹	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	実 習	184時間	必修 6単位	有

授業の目的 と 到達目標	・学内で学んだ知識や技術を介護実習の場で活用し、個別ケアを理解した上で利用者並びに家族の方とのコミュニケーションの実践、状況に応じた介護技術の提供、多職種や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解できる。 ・個別ケアの実践、利用者の方の課題を明確にするために、情報収集の中からその理解に努め、介護計画を作成、実施後の評価や、それを踏まえた介護計画の修正といった一連の介護過程を展開しその意義について理解を深めることができる。 ＊介護福祉士としての実務経験のある教員が、介護実習の指導をする。
授業の概要 達成課題	一連の介護過程の展開において、これまでに学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の元本となる実践力を養い、専門職としてその専門性を発揮できるようにする。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

23 日間を通しての主な実習内容

1. 実習オリエンテーション
2. 施設の運営、多様なサービスとの連携により、介護サービス全般における介護福祉専門職の職務を理解する（可能であれば変則勤務を体験する）
3. 多職種と連携して介護サービスを提供すること、チームの一員としての役割を理解する
4. コミュニケーションの実践を通し、利用者の方個々に合わせたコミュニケーションの方法を用いて、有効なコミュニケーションの方法と技法を理解する
5. 利用者の方との関わりの中でその方の特性や生活リズムを理解し、ニーズに応じた適切な介護の実践を理解する
6. 個別の介護計画を立案し、計画に沿って実施、実施後の評価、修正を含めた一連の介護過程を展開する
7. 利用者の方の日常生活や状況に応じた個別的な介護技術を実践を通して学ぶ
8. 必要な介護記録の取り方を理解し、まとめる
9. 進行度に応じたケースカンファレンスの実施、反省会の実施
10. 最終実習としての総まとめ

(1日8時間 × 23日 = 184時間)

成績評価方法	実習評価表にもとづく総合評価
教科書	
参考書	
備考	介護実習という実践の場で、学内では学べないことを大いに、貪欲に学んでください。

科目名			担当者	
認知症の理解			道又 顕	非 常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2 年次 ・ 通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	・ 認知症の人を理解し、認知症の本質について理解する。 ・ 認知症特有の症状やケアについてその知識を身につける。 ・ 認知症を取り巻く社会環境などを理解し、認知症の人に対する適切な全人的ケアを提供できるようになる知識を身につける。 ＊作業療法士として認知症の人への作業療法経験を持つ教員が、認知症の対象者への対応方法について指導する。
授業の概要 達成 課 題	認知症の原因疾患を知り、その原因疾患ごとの症状の特徴を知ること、対象者（認知症の人）への関わり方の違いや介護負担感の軽減につなげていく。 認知症の有無に関わらず重要な自立支援・自律支援・尊厳保持といったケアの理念を十分に理解する。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	オリエンテーション、認知症の基礎的理解①	第 16 週	認知症ケアの実際②
第 2 週	認知症の基礎的理解②	第 17 週	認知症ケアの実際③
第 3 週	認知症の基礎的理解③	第 18 週	認知症ケアの実際④
第 4 週	認知症の症状・診断・治療・予防①	第 19 週	認知症ケアの実際⑤
第 5 週	認知症の症状・診断・治療・予防②	第 20 週	認知症ケアの実際⑥、国試対策①
第 6 週	認知症の症状・診断・治療・予防③	第 21 週	認知症ケアの実際⑦、国試対策②
第 7 週	認知症の症状・診断・治療・予防④	第 22 週	国試対策③、介護者支援①
第 8 週	認知症の症状・診断・治療・予防⑤	第 23 週	国試対策④、介護者支援②
第 9 週	認知症の症状・診断・治療・予防⑥	第 24 週	国試対策⑤
第 10 週	認知症の症状・診断・治療・予防⑦	第 25 週	国試対策⑥
第 11 週	認知症ケアの歴史と理念①	第 26 週	国試対策⑦
第 12 週	認知症ケアの歴史と理念②	第 27 週	国試対策⑧、認知症の人の地域生活支援①
第 13 週	認知症ケアの歴史と理念③	第 28 週	国試対策⑨、認知症の人の地域生活支援②
第 14 週	認知症ケアの実際①	第 29 週	国試対策⑩、認知症の人の地域生活支援③
第 15 週	前期のまとめ	第 30 週	後期のまとめ

成績評価方法	・小テスト 10%、定期試験 80%、課題 10%
教科書	最新・介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第2版（中央法規出版）
参考書	講義時に関連資料の配布を行う
備考	後期の講義には国試対策の小テストを取り入れていきます。

科目名			担当者	
こころとからだのしくみⅡ			原田光子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次通年	講義	60 時間	必修 4 単位	有

授業の目的 と 到達目標	④ 移動・身支度・食事・入浴・排泄における生活活動の意味、目的を正しく理解し支援できるようになる。 ⑤ 主な身体的機能を正しく理解し、機能低下の状況を的確にとらえ、医療職との連携を図ることができるようになる。 ⑥ 「死」および終末期から「死」までの身体機能の変化を理解し、状況に合わせ対応できるようになる。また、「死」を迎える本人・家族のこころの変化を理解し、受け止めることができるようになる。 * 大学病院等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。
授業の概要 達成 課題	人の生活を断片的ではなく流れとして捉え、次の活動につながるケアを科学的に考え提供できるようにする。 また、介護の判断となる根拠を捉え、こころとからだのしくみからアセスメントの視点を持つことができるようにする。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	心身の機能低下が入浴・清潔に及ぼす影響
第 2 週	移動のしくみ	第 17 週	入浴・清潔での変化の気づきと対応
第 3 週	移動のしくみ	第 18 週	排泄のしくみ
第 4 週	心身の機能低下が移動に及ぼす影響	第 19 週	排泄のしくみ
第 5 週	移動での変化の気づきと対応	第 20 週	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
第 6 週	身支度のしくみ	第 21 週	排泄での変化の気づきと対応
第 7 週	身支度のしくみ	第 22 週	休息・睡眠のしくみ
第 8 週	心身の機能低下が身支度に及ぼす影響	第 23 週	休息・睡眠のしくみ
第 9 週	身支度での変化の気づきと対応	第 24 週	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
第 10 週	食事のしくみ	第 25 週	休息・睡眠での変化の気づきと対応
第 11 週	食事のしくみ	第 26 週	死のとらえ方
第 12 週	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	第 27 週	死に対するこころの理解
第 13 週	食事での変化の気づきと対応	第 28 週	終末期から危篤状態、死後のからだの変化
第 14 週	入浴・清潔保持のしくみ	第 29 週	死にゆく人の変化の気づきと対応
第 15 週	入浴・清潔保持のしくみ	第 30 週	さまざまな場面での医療職との連携

成績評価方法	定期試験による評価とする。
教科書	介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」 中央法規
参考書	必要時資料配付する。
備考	一番身近でケアを提供している介護者としてどこに視点を置き、何を観察し、どのように報告、あるいは対応すればよいかを学ぶ。

科目名			担当者	
喀痰吸引			原田 光子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次前期	講義・演習	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	① 呼吸のしくみと働きを理解する。 ② 喀痰吸引実施の際の留意点や緊急時の対応など実践的知識を得る。 ③ 喀痰吸引の実施手順を身につける。 ＊大学病院等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。
授業の概要 達成課題	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引について、呼吸のしくみと働きや人工呼吸器など基礎知識と実施手順・留意点を学ぶ。また手順にそって演習を行い、技術を習得する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】 第 1 週 呼吸器のしくみと働き 第 2 週 いつもと違う呼吸状態 第 3 週 喀痰吸引とは・喀痰吸引で用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持 第 4 週 人工呼吸器と吸引① 第 5 週 人工呼吸器と吸引② 第 6 週 子供の吸引について・喀痰吸引に伴うケア 第 7 週 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・呼吸器の感染と予防 第 8 週 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 第 9 週 急変・事故発生時の対応と事前対策、報告及び記録 第 10 週 喀痰吸引の実施の手順と留意点① 第 11 週 喀痰吸引の実施の手順と留意点② 第 12 週 喀痰吸引の実施の手順と留意点③・基礎確認テスト 第 13 週 喀痰吸引演習 第 14 週 喀痰吸引演習 第 15 週 喀痰吸引演習	
成績評価方法	基礎確認テスト合格後、実技試験を行う。
教科書	新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規
参考書	最新介護福祉全書 13 医療的ケア メヂカルフレンド社
備考	喀痰吸引を必要としている方を理解し、安全に実施できるように知識と技術を習得できるようにする。 基礎確認テストを行い、合格者のみ演習を行うこととする。

科目名			担当者	
経管栄養			原田 光子	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験
2 年次前期	講義・演習	30 時間	必修 2 単位	有

授業の目的 と 到達目標	①消化器系のしくみと働きを理解する。 ②経管栄養の実施の際の留意点や緊急時の対応など実践的知識を得る。 ③経管栄養の実施手順を身につける。 ＊大学病院・福祉施設等で看護師として実務経験のある教員がこの科目の指導を行う。
授業の概要 達成課題	高齢者及び障害児・者の経管栄養について消化器系のしくみとはたらきや注入する内容についての知識、実施手順・留意点を学ぶ。また手順にそって演習を行い、技術を習得する。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

《テーマ／課題／宿題等を箇条書きで記載》

- 第 1 週 消化器系の働きとしくみ
 第 2 週 消化器の主な症状
 第 3 週 経管栄養とは・経管栄養に用いる器具、器材とそのしくみ、清潔の保持
 第 4 週 注入する内容に関する知識
 第 5 週 経管栄養実施上の留意点・子供の経管栄養について
 第 6 週 経管栄養に必要なケア
 第 7 週 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意・経管栄養に関係する感染と予防
 第 8 週 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
 第 9 週 急変・事故発生時の対応と事前対策・報告及び記録
 第 10 週 経管栄養の実施の手順と留意点①
 第 11 週 経管栄養の実施と手順と留意点②
 第 12 週 経管栄養の実施と手順と留意点③・基礎確認テスト
 第 13 週 経管栄養演習
 第 14 週 経管栄養演習
 第 15 週 経管栄養演習

※ 講義実時間 1 週 90 分×12 18 時間

成績評価方法	基礎確認テスト合格後、実技試験を行う。
教科書	新・介護福祉士養成講座 15 医療的ケア 中央法規
参考書	中央法規 最新介護福祉全書 13 医療的ケア メヂカルフレンド社
備考	経管栄養を必要としている方を理解し、安全に実施できるように知識と技術を身につけるようにする。 基礎確認テストを行い、合格者のみ演習を行うこととする。